

主任教授からのメッセージ

内科学第三講座は初代主任教授が鮫島美子先生であり、伝統的に女性医師が比較的多い診療科です。妊娠・出産しながら研修・診療をする先生も増えてきており、“お母さん”になった先生がスムーズに診療に復帰できるようにサポートしていきたいと思います。

○ 診療科の特徴

多彩な疾患を対象とし、超音波、内視鏡を用いた検査、治療など特殊な技術を学べる一方で、急性疾患、慢性疾患、緩和ケアに至るまで幅広く診療ができ、入局してから自分がさらに専門的にしたい分野を選ぶことができます。また、大学院への進学や研究、学会活動にも積極的に取り組んでいます。

○ 診療科で働く女性医師

現在附属病院に4名、総合医療センターに2名、香里病院に2名の女性医師が常勤医として働いており、それぞれの専門分野において第一線で活躍しています。

また現在も女性医師復帰支援プログラムを利用している医師が在籍中で、復帰を考えている女性医師の身近な先輩としても活躍しています。

職場復帰への取り組みについて

○ 復帰までの道のり

復帰までの決まったプログラム内容はなく、個人のキャリアやブランク期間によって柔軟に対応しています。

プログラム例

		指導下 / 独立		指導下 / 独立
検査 処置	【検査】		【処置】	
	上部内視鏡	1～6か月 / 7か月～	止血術	2～6か月 / 7か月～
	下部内視鏡	2～6か月 / 7か月～	内視鏡的治療 (EMR、ESD)	2～6か月 / 7か月～
	カプセル内視鏡	1～6か月 / 7か月～	胆道ドレナージ	6か月以降
	小腸内視鏡	2～12か月 / 1年～		
	ERCP	6か月以降	肝局所治療 (PMCT、PRFA)	2～6か月 / 7か月～
	腹部超音波	1か月 / 2か月～		
	肝生検	1～6か月 / 7か月～		
外来	一般外来		専門外来	/ 2か月～
病棟	入院受け持ち			

○ 研修内容

復帰後の研修を希望する女性医師を取り巻く環境は個々で異なるため、研修内容はオーダーメイドの研修計画となります。自信を持って臨床診療が行えるように上級医がサポートし、また専門医取得や医学博士課程への進学も応援します。

○ 女性医師キャリア形成支援担当医師からのメッセージ

内科学第三講座は比較的女性医師が多く、積極的に育児に参加している男性医師も多く在籍し、職場復帰を目指す医師にとっては働きやすい環境にあると思います。また、臨床復帰を目指すためのプログラムも充実しています。個々の事情

を配慮しながら柔軟に対応できることを主眼に置いているため、少しでも不安を感じた場合にはいつでも相談してください。

当講座の特徴として、2002年に女性医師による「消化器肝臓内科女医会」が発足され、以降大学に勤務中の先生や他病院で活躍中のOBの先生、さらに卒後研修医を交え、女医会（JOY会）を定期開催しており、女性医師を盛り上げるための活動を行っています。

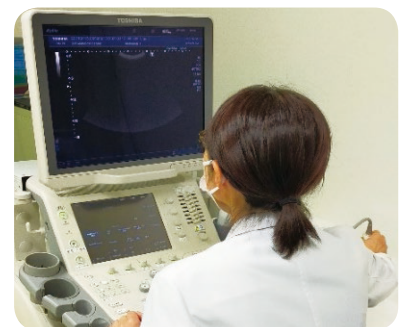
復帰した医師の声

体験談（A先生）

私は、卒後7年目に第1子を出産後、内科学第三講座に入局しました。きっかけは出身大学であること、女性の先生方がたくさんいらっしゃったことです。総合医療センターで短時間勤務正職員1年間を経て、大学院4年間修了後、再度、総合医療センターの短時間勤務正職員で1年半勤務させていただきました。大学院生の時は出産後3か月から託児室に子供を預け、短時間勤務の間は内視鏡検査と、大腸ポリープの内視鏡的治療を主に担当させていただいておりましたが、第2子出産後間もないこともあり、半年間は1か月に1度は乳腺炎を来し、周囲の先生方にはご迷惑をおかけしました。また、やりたいことを主にさせていただき、本当に周囲の先生方、看護師の方たちには感謝しております。育児をしながらの勤務は職場、家庭をはじめとする周囲からの協力が欠かせません。今、関西医科大学天満橋総合クリニックで働かせていただけているのは、この医局で出会えた先生方、教授、家族の支えのおかげだと思っております。また、内科学第三講座には女医会があり、何度か参加させていただきましたが、色々な経験を持つ先生方がたくさんいらっしゃることに驚きました。今後も自分ができる範囲で努力し、日々の仕事に邁進したいと思います。

体験談（B先生）

2度の産休・育休を内科学第三講座で取得させていただきました。2人目は切迫流産になり、産休が予定より早くなってしまいましたが、柔軟に対応していただけました。復帰時もスムーズに段取りいただき、困ることはありませんでした。復帰した際は、しばらくの間、内視鏡検査に業務を絞っていただくなどのご配慮がありました。子供が小さいうちは、急な発熱など予期せぬ事態が頻繁に起こるので、そのような配慮がとても助かりました。病棟業務に復帰してからも、周りに温かく支えられて仕事ができていると感じます。



● 講座ホームページ 関西医科大学 内科学第三講座 <https://www7.kmu.ac.jp/im3/>